

白神山地世界遺産地域における
実態把握等の調査報告書

平成14年3月

東北森林管理局青森分局
財団法人 林業土木コンサルタンツ青森支所

目 次

まえがき	1
I 調査目的	2
II 実態把握調査箇所	3
1 調査ルート	3
2 土壌硬度調査箇所	3
III 実態把握調査事項	4
1 核心地域内の指定ルート、既存歩道等の状況	4
2 標識類	4
3 鳥獣類の生息状況	4
4 聞き取り調査	4
IV 調査結果	17
1 調査結果の概要	17
(1) 調査箇所の概要	17
(2) 調査結果の概要	18
2 ルートごとの調査結果	22
(1) ルート1	22
(2) ルート2	24
(3) ルート3	25
(4) ルート4	26
(5) ルート5	29
(6) ルート6	30
(7) ルート7	33
(8) ルート8	36
(9) ルート11	41
(10) ルート12	42
(11) ルート13	45
(12) ルート14	49
(13) ルート15	51
(14) ルート16	53
(15) ルート17	55
(16) ルート18	57
(17) ルート19	58
(18) ルート20	60
(19) ルート22	62

(20) ルート 2 3	6 4
(21) ルート 2 4	6 7
(22) ルート 2 5	6 9
(23) ルート 2 6	7 1
(24) ルート 2 7	7 4
(25) 白神岳コース (マテ山コース)	7 6
(26) 白神岳コース (十二湖・大峰コース)	8 0
(27) 向白神岳コース (一ツ森～吉ヶ峰)	8 2
(28) 天狗岳コース (天狗峠～天狗岳)	8 4
(29) クマゲラの森コース	8 7
(30) 高倉森コース	9 0
(31) 調査結果取りまとめ表	9 4
3 土壌硬度調査結果	9 5

ま え が き

白神山地は、青森県南西部と秋田県北西部の県境にまたがる標高100mから1,200m余に及ぶ山岳地帯の総称である。

当山地のブナ林内には多種多様な植物群落が共存し、かつブナ林を背景とした豊富な動物群が生息するなど、わが国の固有種であるブナを主とする森林の博物館的景観を呈する地域である。

本地域の保護の歴史は比較的新しく、平成2年の「森林生態系保護地域」の設定、同4年の「自然環境保全地域」の指定等最近のことである。

この森林生態系保護地域とまったく同じ地域が、平成5年12月に九州の屋久島と共に「世界遺産地域（自然遺産）」に登録された。この世界遺産地域は、白神山地の核心部に位置し、都市から遠く離れ、森林の伐採もほとんど行われていない、白神山地の中でも人為的な影響をほとんど受けていない原生的な森林が残されてきた地域である。

その後、世界遺産地域を適正に保護管理していくために「白神山地世界遺産地域管理計画」が作られた。

白神山地世界遺産地域連絡会議は、管理計画に基づき「白神山地世界遺産地域懇話会」を設置して核心地域の「入山規制の態様」について検討した。連絡会議は、その結果を踏まえて核心地域への入山の取り扱いを決め、平成9年6月30日公表した。

公表された核心地域の入山の取扱いは、見直しを前提とした試験的なものであるが、登山については、既存の歩道に加え、27区間の「指定ルート」も利用できることになっている。

今回の調査は、この取り扱いが決められてから5年目ということもあり、指定ルート等の実態について把握しようとするものである。

調査に当たり、森林総合研究所東北支所の北田正憲連絡室長、東北森林管理局青森分局指導普及課、津軽森林管理署、同鱒ヶ沢事務所並びに深浦森林管理センターの皆様方には、貴重な御助言、御指導をいただき感謝申し上げます次第である。

また、現地調査に当たってガイドをしていただいた竹越惠藏氏並びにお忙しい中、聞き取り調査に御協力していただいた諸氏に感謝申し上げます次第である。

平成13年12月

財団法人 林業土木コンサルタンツ
青森支所長 橋 岡 伸 守

I 調査目的

現行の白神山地世界遺産地域の核心地域の入山の取り扱いについては、見直しを前提とした試験的措置であり、かつ、この取り扱いが平成9年6月に決められてから5年目ということなどから「指定ルート」等の実態を調査把握し、今後の取り扱いの参考にしようとするものである。



写真-1 ルート1（追良瀬川）の起点の状況

II 実態把握調査箇所

1 調査ルート（別紙図面参照）

(1) 指定ルート

ア 全線調査

1、2、3、4、5、6、7、8、11、12、13、14、15、16、17、18、19、22、23、24、25、26、
27、

イ 部分調査

9、10＝追良瀬川分岐

20＝石の小屋場沢分岐～カネマサコ沢まで

21＝赤石川分岐（ノロの沢、二股）

(2) 既存歩道

白神岳（マテ山コース全線）

（十二湖・大峰コース全線）

向白神岳（白神岳側入口）

（一ツ森～吉ヶ峰）

天狗岳（天狗峠～天狗岳）

クマゲラの森（奥赤石川林道～赤石川本流）

高倉森（津軽峠～暗門大橋）

2 土壌硬度調査箇所（別紙図面参照）

指定ルート 6：南追良瀬山国有林122林班ろ小班内(N01)

7： " 121林班口小班内(N02)

8：東岩崎山国有林113林班イ小班内(N03)

11：南追良瀬山国有林115林班ろ小班内(N04)

12： " 116林班ろ小班内(N05)

13： " 118林班に小班内(N06)

23：安門沢国有林171林班い₁小班内(N07)

中赤石山国有林63林班ろ₂小班内(N08)

24： " " (N09)

 " " (N010)

25：大川沢国有林155林班ろ小班内(N011)

26：安門沢国有林167林班ろ小班内(N012)

27：大川沢国有林154林班ろ小班内(N013)

注：（ ）書きは、調査箇所番号

Ⅲ 実態把握調査事項

1 核心地域内の指定ルート、既存歩道等の状況

(1) 指定ルート等

- ア 横断形状測定
- イ 歩道の硬さの変化
- ウ 歩道の荒廃状況の概要
- エ 荒廃による周辺の植生変化
- オ 河川、沢の規模
- カ その他特異な状況

(2) 既存の歩道・登山道

- ア 荒廃状況の概要
- イ 荒廃による周辺の植生変化
- ウ その他特異な状況

(3) 指定ルート及び既存歩道以外の歩行状況と林床変化等が認められる箇所

- ア 横断形状測定
- イ 荒廃状況の概要
- ウ 荒廃による植生変化
- エ その他特異な状況

(4) 里山植生の侵入状況

指定ルート及び既存歩道の両端部から最奥部里山植生の侵入地点と侵入植物名

(5) キャンプ、タキ火、魚釣りの状況

- ア キャンプ地周辺の地形と植生変化
- イ 上記付近におけるタキ火、魚釣り、ゴミ、汚物等の残存状況

(6) 道標、テープ、ペンキ、落書、遺留品等の残存状況

2 標識類

標識類の種類、設置位置、現況

3 鳥獣類の生息状況

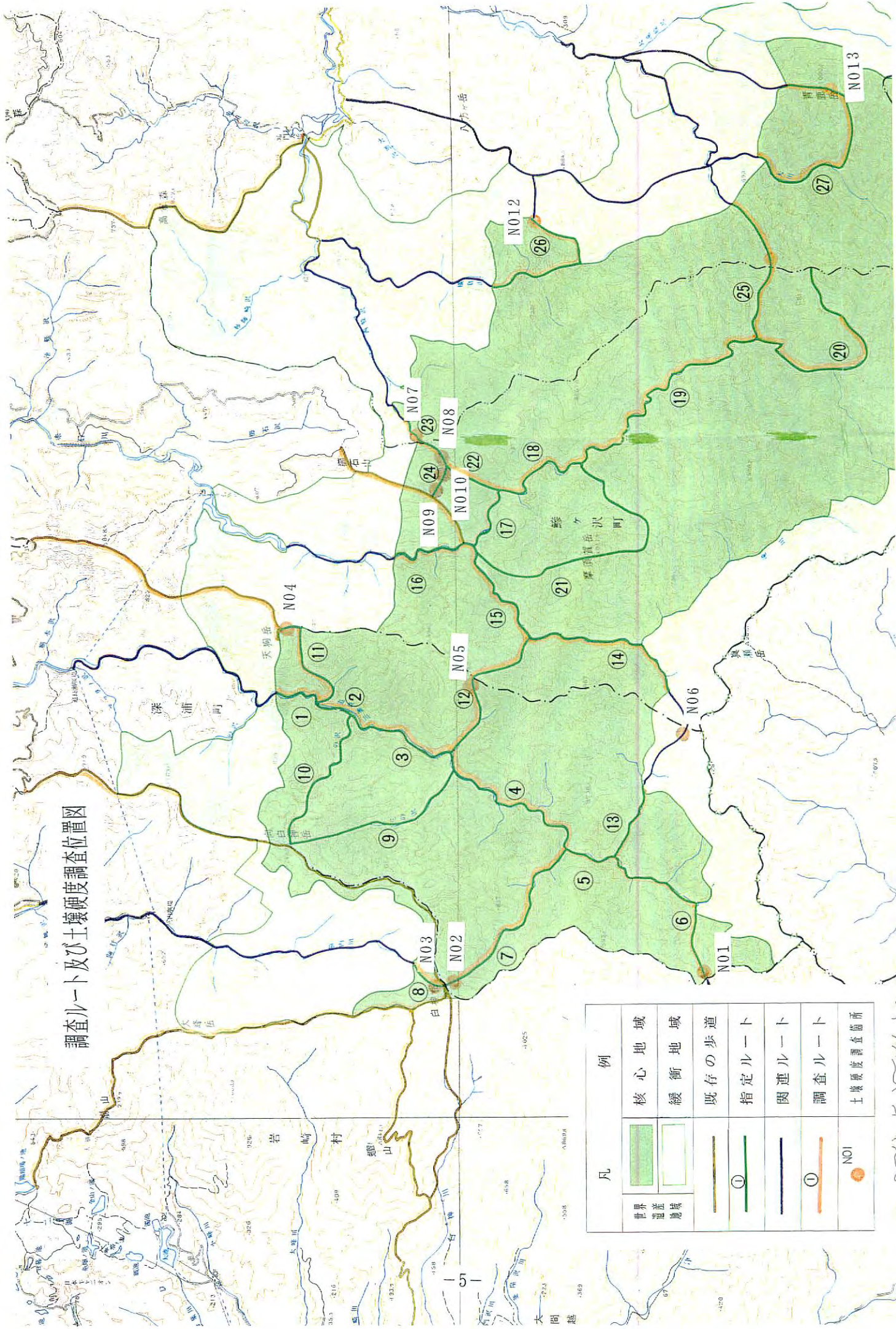
各ルート等上での野生生物のフィールドサインを探索

4 聞き取り調査

(1) 遺産地域巡視員等から上記の調査事項について遺産地域登録当時の状況、現在の入山状況等の聞き取り調査

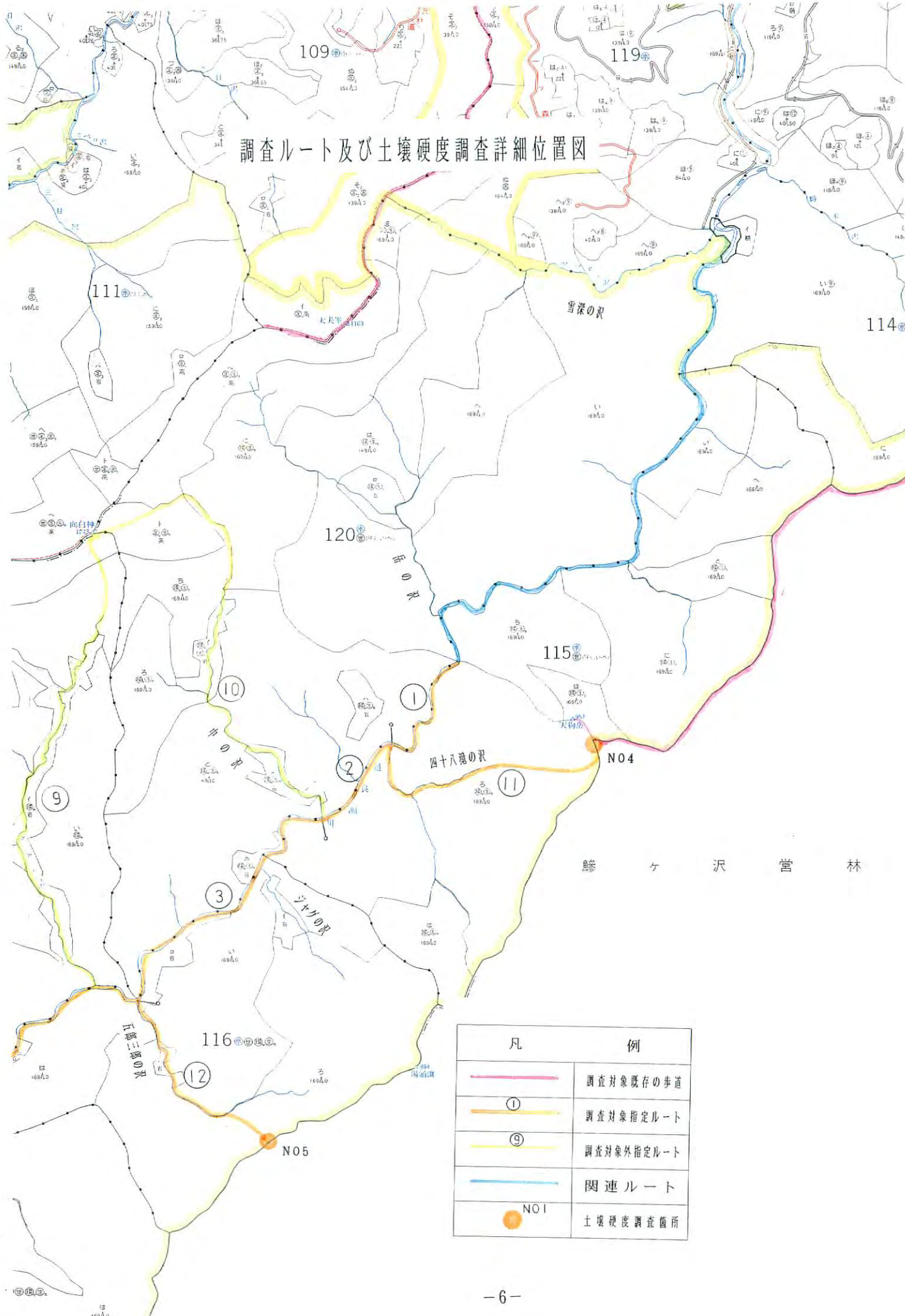
(2) 当時の状況写真の有無及び提供の可否

調査ルート及び土壌硬度調査位置図



凡 例	
	核心地域
	緩衝地域
	既存の歩道
	指定ルート
	関連ルート
	調査ルート
	土壌硬度調査箇所

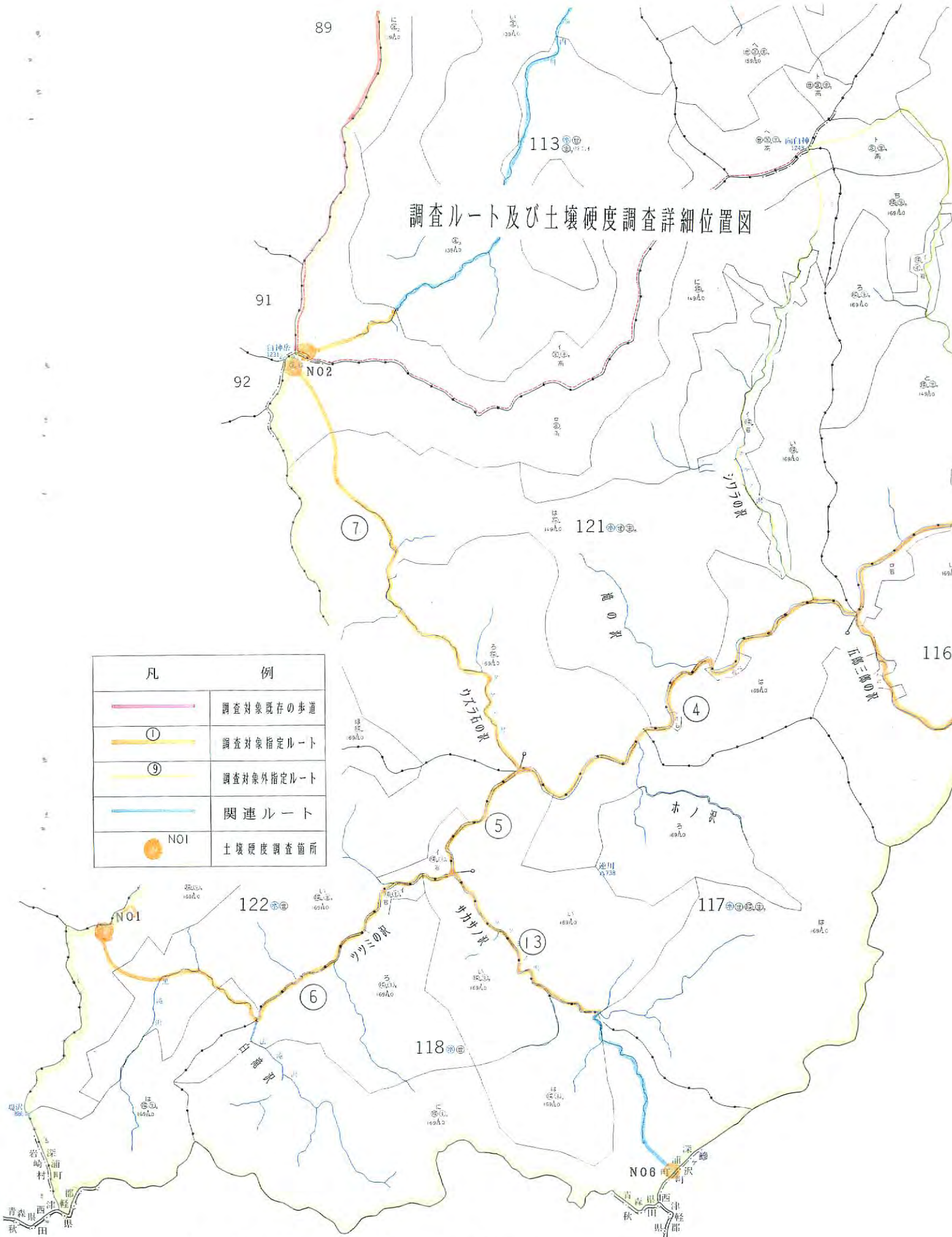
調査ルート及び土壌硬度調査詳細位置図








凡	例
	調査対象既存の歩道
	調査対象指定ルート
	調査対象外指定ルート
	関連ルート
	NO1 土壌硬度調査箇所

調査ルート及び土壌硬度調査詳細位置図

凡	例
	調査対象既存の歩道
	調査対象指定ルート
	調査対象外指定ルート
	関連ルート
	NOI 土壌硬度調査箇所



調査ルート及び土壌硬度調査詳細位置図

凡	例
	調査対象既存の歩道
	調査対象指定ルート
	調査対象外指定ルート
	関連ルート
	土壌硬度調査箇所

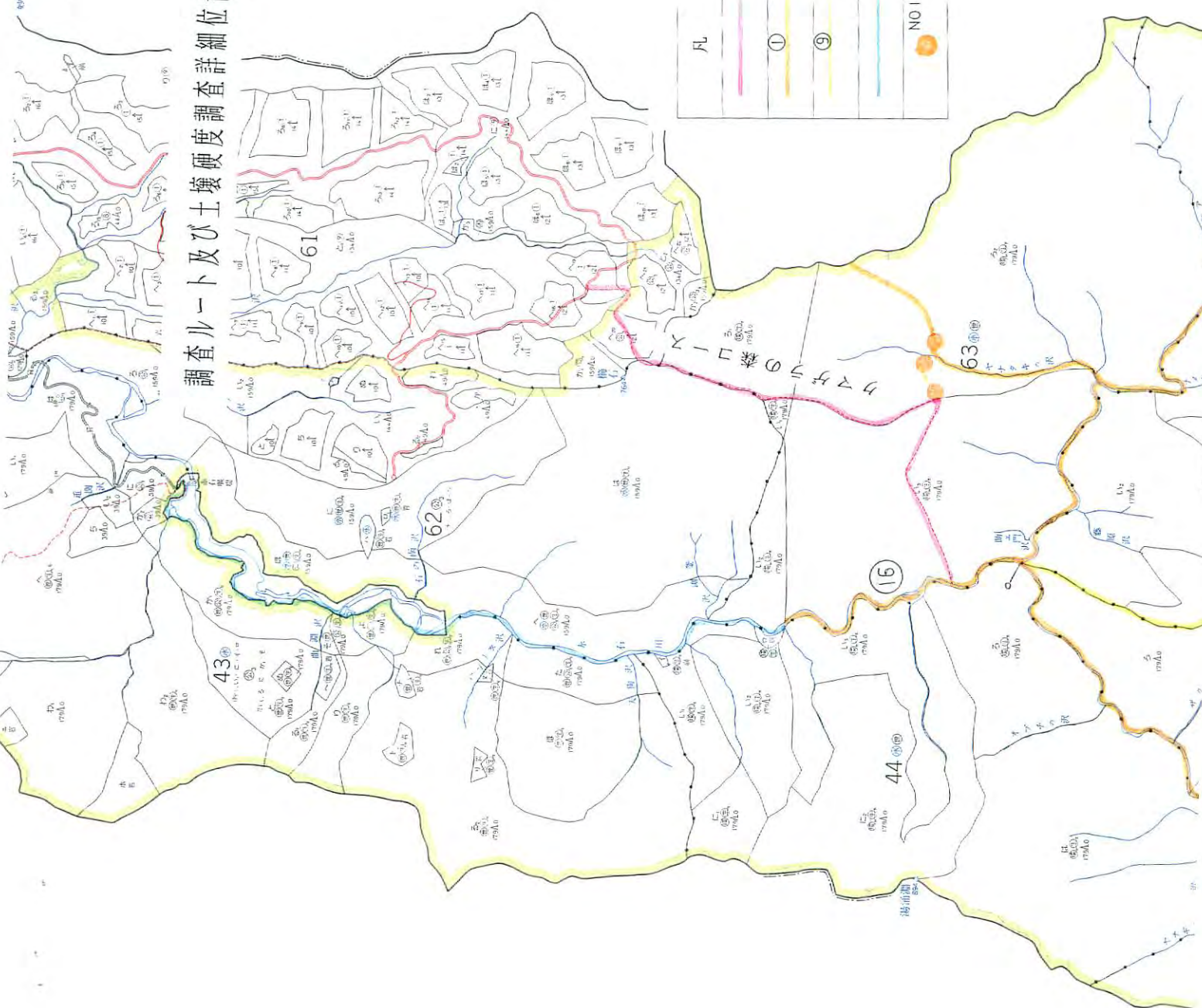


調査ルート及び土壌硬度調査詳細位置図

弘

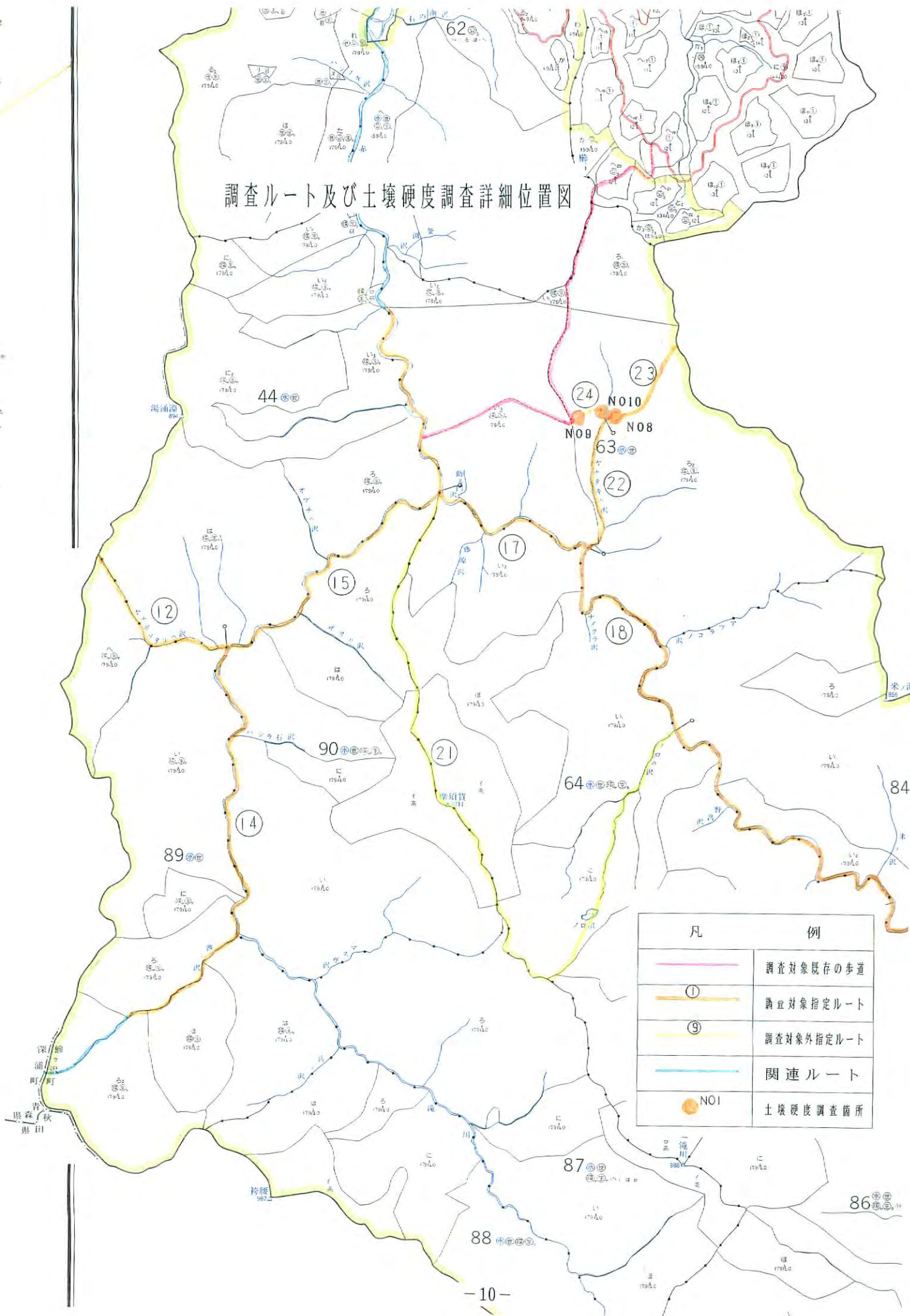
前



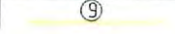


堂



凡	例
	調査対象既存の歩道
①	調査対象指定ルート
②	調査対象外指定ルート
	関連ルート
NO.1	土壌硬度調査箇所

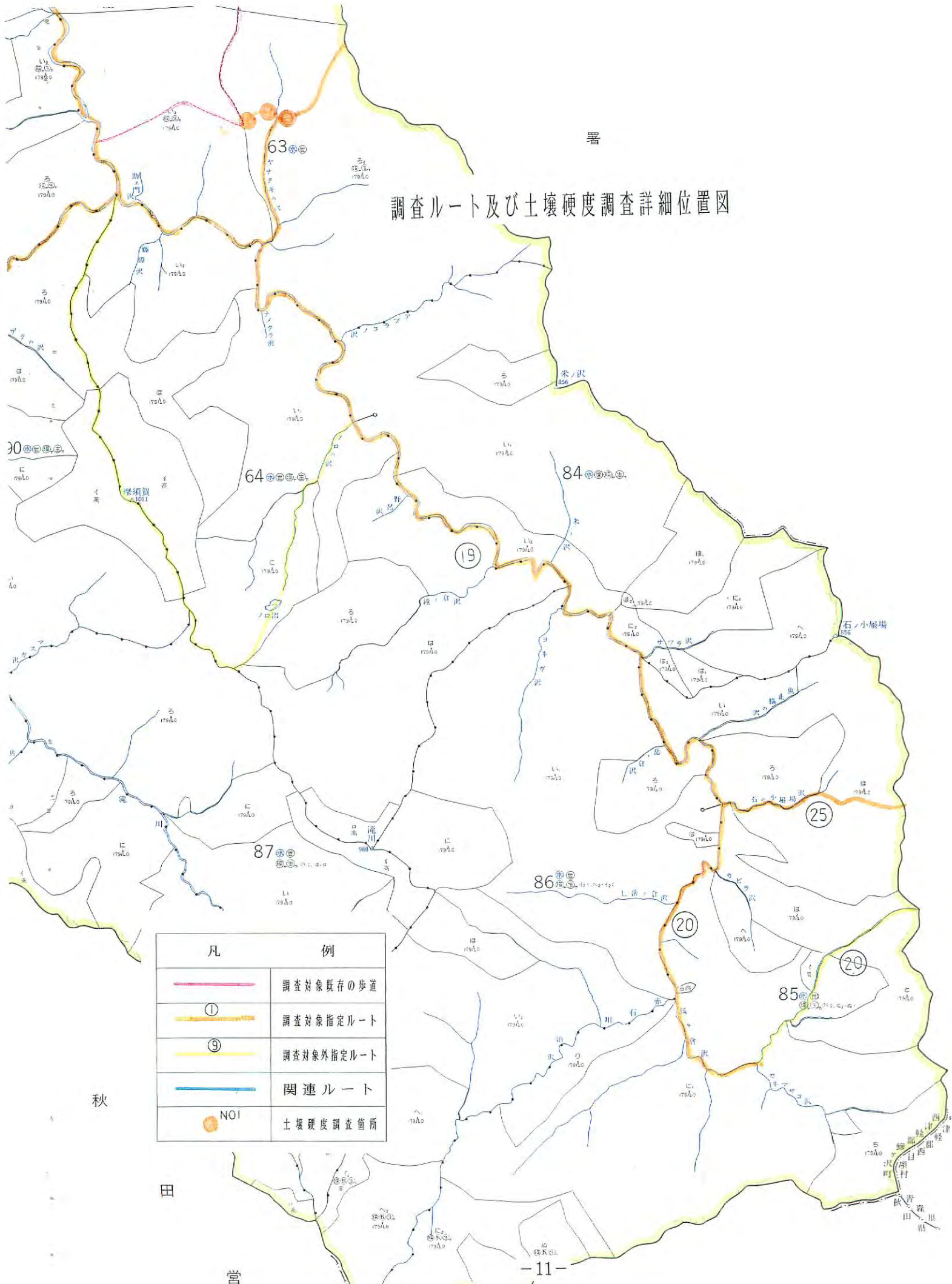
調査ルート及び土壌硬度調査詳細位置図



凡 例	
	調査対象既存の歩道
	調査対象指定ルート
	調査対象外指定ルート
	関連ルート
	NO1 土壌硬度調査箇所

署

調査ルート及び土壌硬度調査詳細位置図



凡	例
	調査対象既存の歩道
	調査対象指定ルート
	調査対象外指定ルート
	関連ルート
	土壌硬度調査箇所

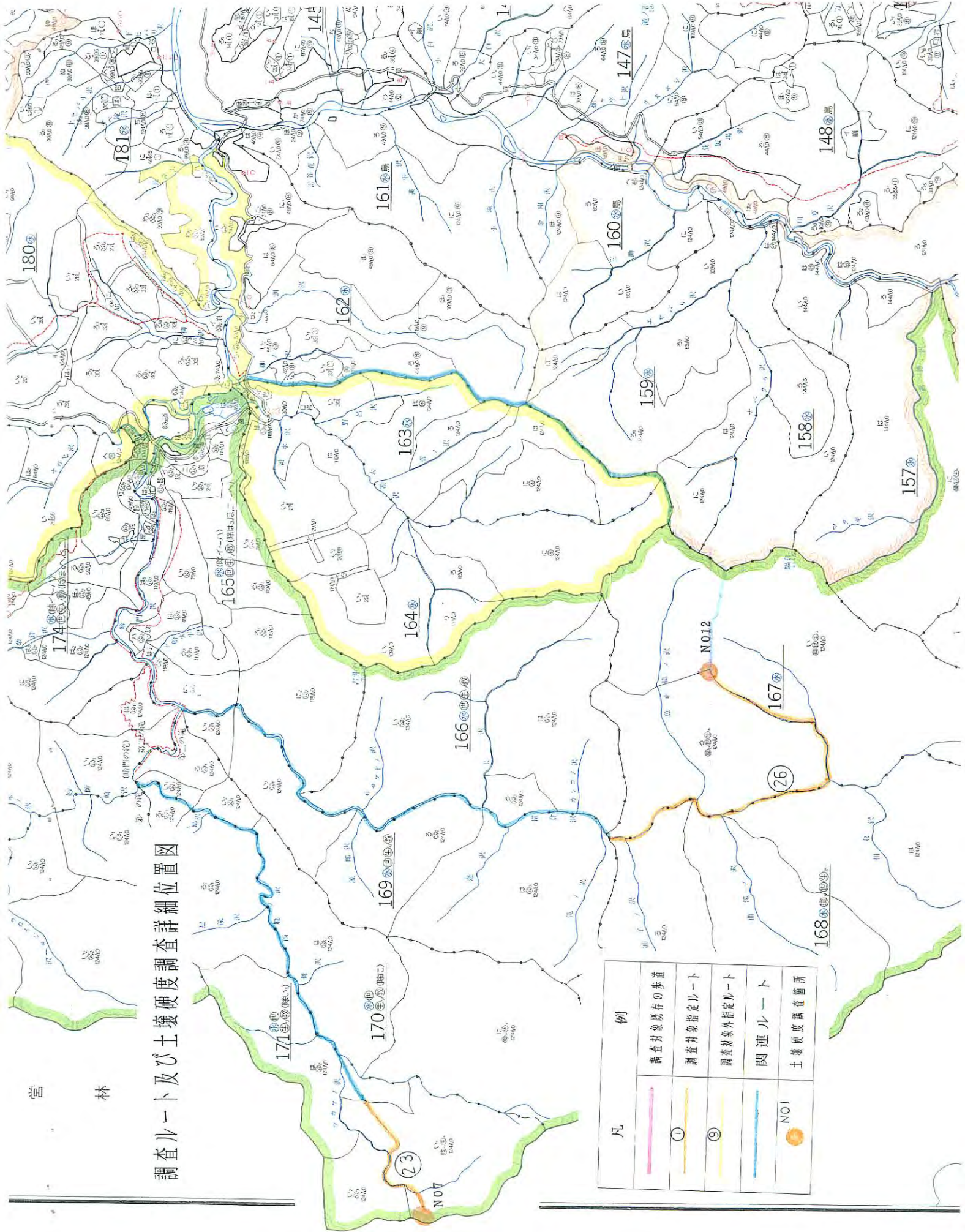
秋

田

営

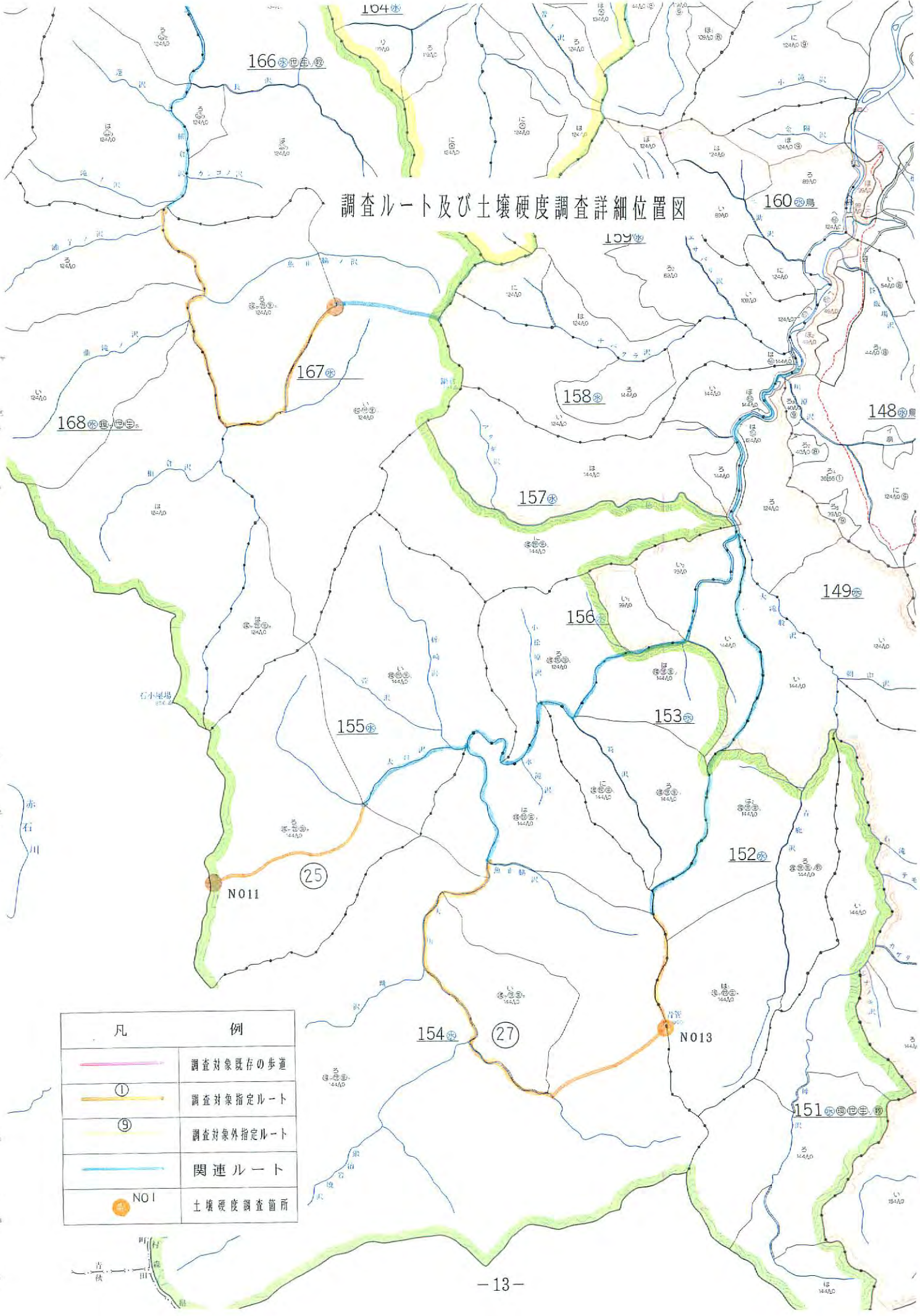
営 林

調査ルート及び土壌硬度調査詳細位置図

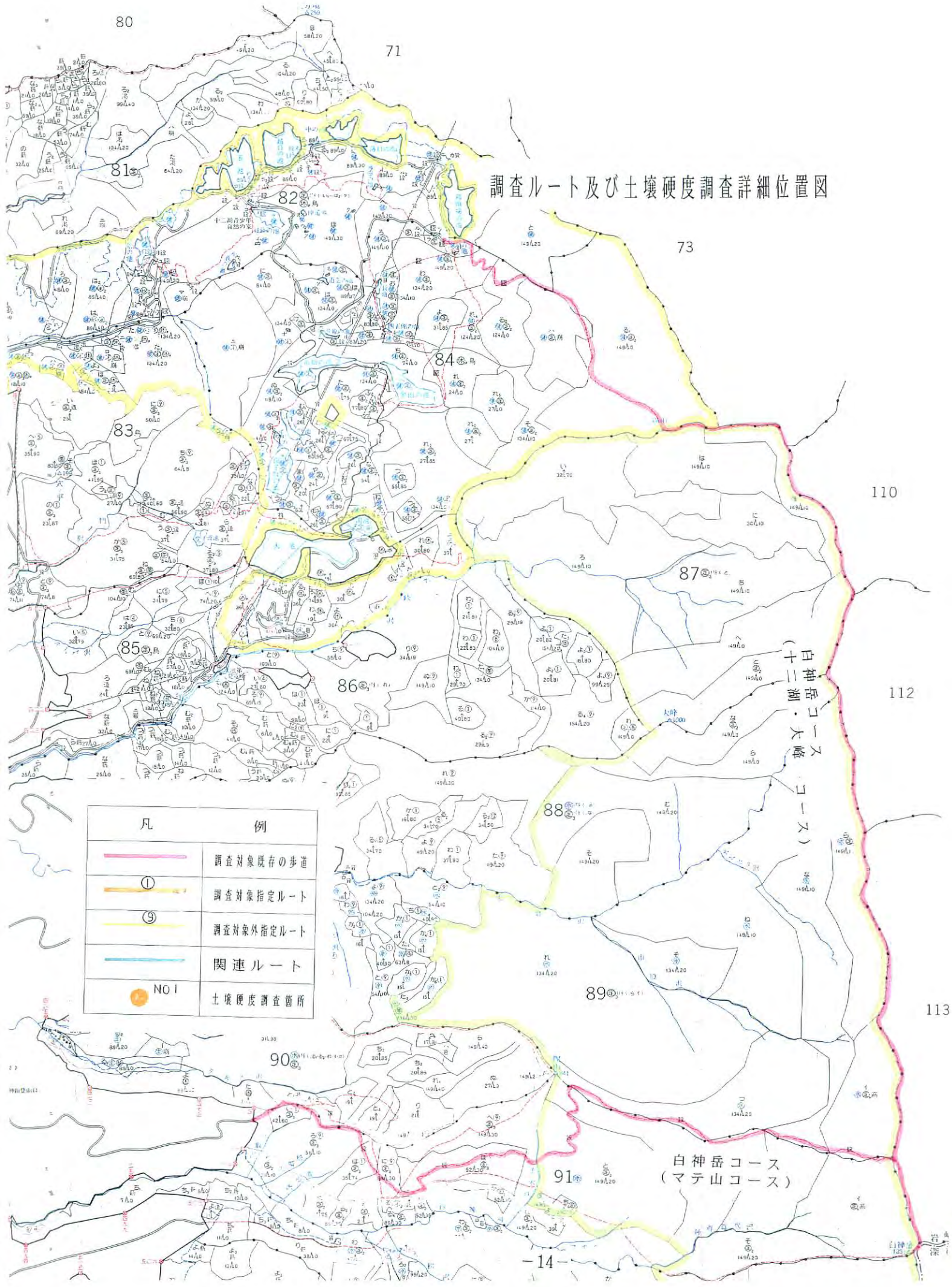


凡	例
	調査対象既存の歩道
	調査対象指定ルート
	調査対象外指定ルート
	関連ルート
	土壌硬度調査箇所
	N01

調査ルート及び土壌硬度調査詳細位置図

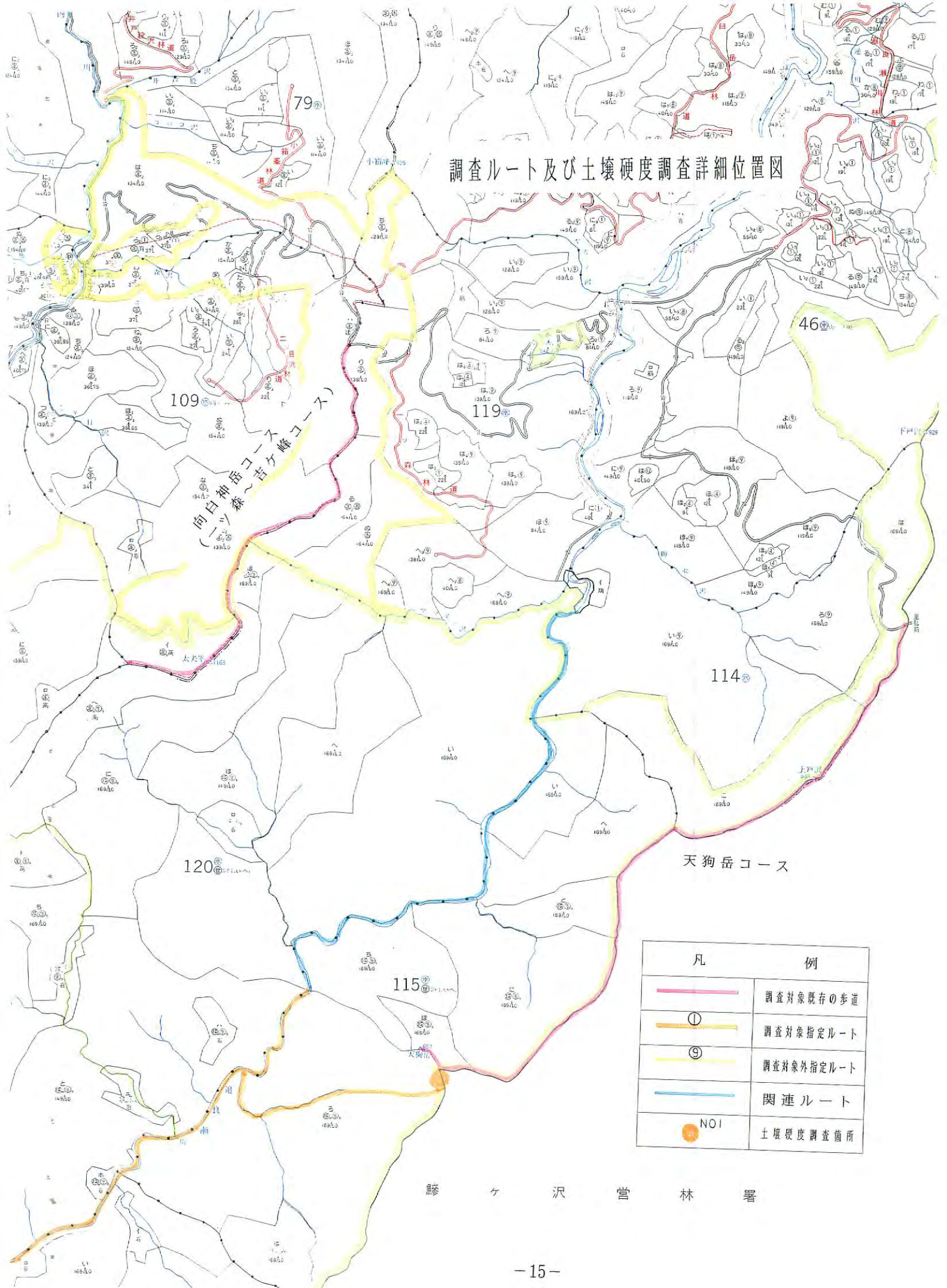


調査ルート及び土壌硬度調査詳細位置図



凡	例
	調査対象既存の歩道
	調査対象指定ルート
	調査対象外指定ルート
	関連ルート
	土壌硬度調査箇所

調査ルート及び土壌硬度調査詳細位置図



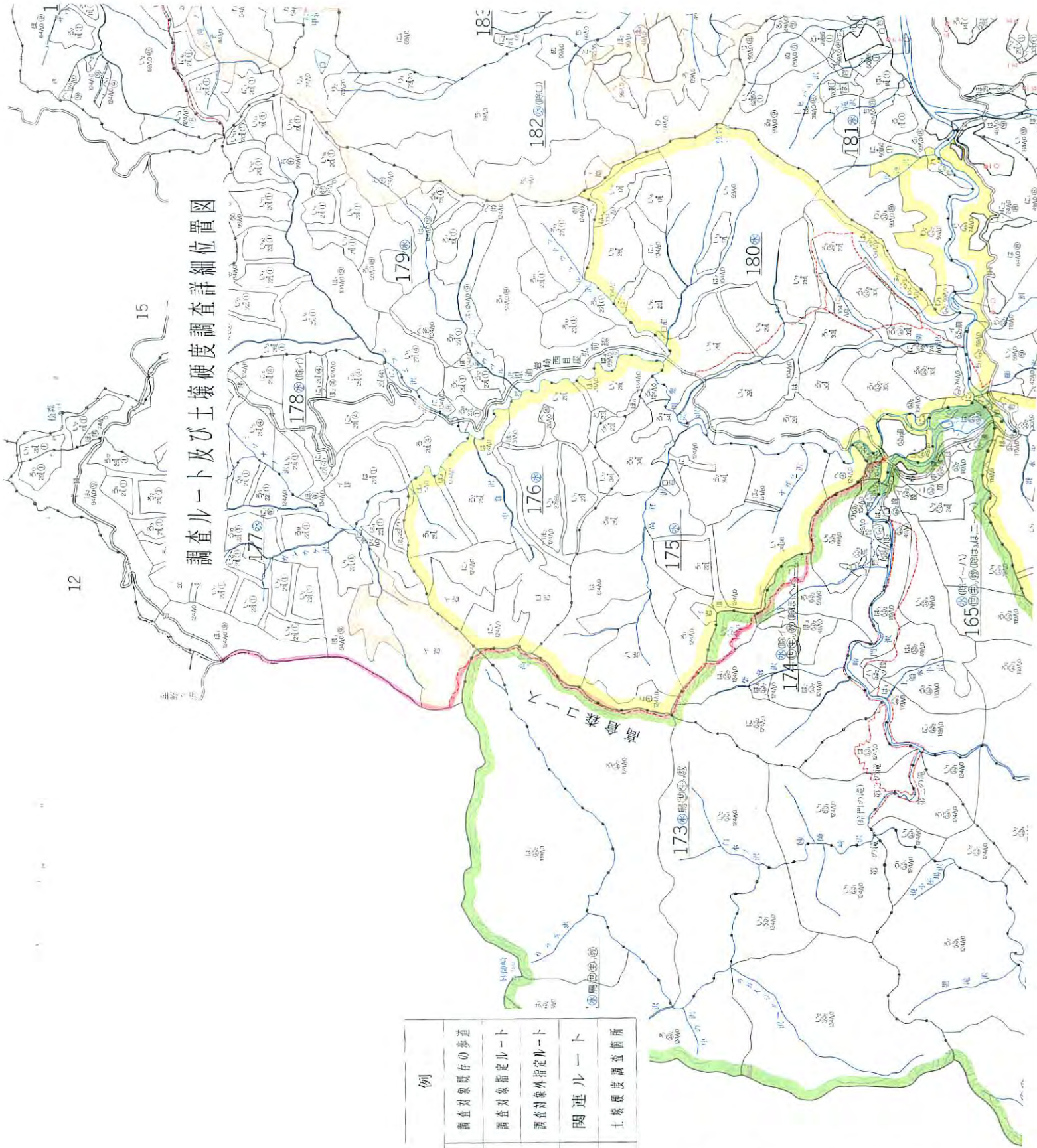
向白神岳コブツ峰コース

天狗岳コース

凡	例
	調査対象既存の歩道
	調査対象指定ルート
	調査対象外指定ルート
	関連ルート
	NO1 土壌硬度調査箇所

鷹ヶ沢営林署

調査ルート及び土壌硬度調査詳細位置図



凡	例
	調査対象既存の歩道
	調査対象指定ルート
	調査対象外指定ルート
	関連ルート
	土壌硬度調査箇所

沢 堂 林 署

IV 調査結果

1 調査結果の概要

(1) 調査箇所概要

白神山地は、青森県南西部と秋田県北西部の県境にまたがる標高100mから1,200m余に及ぶ山岳地帯の総称である。

特に、世界遺産地域は、この山地の核心部に位置し面積は16,971haである。

世界遺産地域のブナ林は、純度の高さやすぐれた原生状態の保存、動植物相の多様性で世界的に特異な森林であり、氷河期以降の新しいブナ林の東アジアにおける代表的なものである。また、様々な群落型、更新のステージを示しつつ存在している生態学的に進行中のプロセスとして顕著な見本となっている。世界遺産に登録された所以である。

この地域は、暗門の滝入口以外には車道はない。また、歩道についても核心地域にまで到達している歩道として位置付けられているのは、白神岳登山道、向白神岳登山道、天狗岳歩道及びクマゲラの森歩道の4路線のみである。

したがって、この地域に入るためには、川の中をこぎ、滝をのぼり、やぶをこがなければならない。

重要な通路が、川ということになる。

世界遺産地域に到達している主な河川としては、青森県側は、西から笹内川、追良瀬川、赤石川及び大川（岩木川の支流）があり、いずれも北に向かって流れている。

世界遺産地域の中の山としては、白神岳(1,232m)が最も良く知られており、最高峰が向白神岳(1,243m)である。その他にも、標高1,000m前後の山々が連なっている。主なものは、県境にもなっている尾根に、真瀬岳(988m)、ニッ森(1,086m)、雁森岳(987m)、小岳(1,042m)などがあり、青森県側に、天狗岳(958m)、摩須賀岳(1,012m)、青鹿岳(1,000m)などがある。いずれも山腹は急傾斜をなし、雪食地形も多く険しい地形をなしている。

今回の調査の対象箇所は、IIで述べたように、既存の歩道が白神岳登山道（マテ山コース、十二湖・大峰コース）、向白神岳登山道の一部（一ツ森～吉ヶ峰）、天狗岳歩道（天狗峠～天狗岳）、クマゲラの森歩道及び高倉森観察歩道（白神山地自然観察歩道＝津軽峠～暗門大橋）である。指定ルートは全部で27ルートあるが、ルート9、10、21及び20（一部を除く）を除き、残りの1、2、3、4、5、6、7、8、11、12、13、14、15、16、17、18、19、20（カネマサコの沢より上流を除く）、22、23、

24、25、26及び27が対象であった。

指定ルートは、ほとんどが溪流沿いのルートであったが、一部、尾根越えのルートなどは山腹のルートもあった。いずれのルートも、指定ルートに到達するまでに関連ルートを経由する必要がある。

(2) 調査結果の概要

ア ルート等の状況

既存の歩道は、暗門の遊歩道を除いて全て山腹又は尾根筋を通るルートである。

向白神岳の登山道のように、既存歩道に位置付けられていても手入れをしないことから既に道形が消えている登山道もあるが、地図を頼りに行けば迷うことは少ない。

これに対し、指定ルートの尾根越え部分は、上って行く沢を確実に地図で確認していかないかぎり尾根を越える箇所が登山者によって異なることになる。

今回の調査を通じて感じたことは、ルートによって濃淡はあるが、踏み跡、キャンプ跡、オオバコの分布状況などからして、各ルートともかなり古くから人が関与してきた形跡が残されている。

巡視員などへの聞き取り調査によると、白神岳などは、世界遺産登録前と比べて登山者の数は急増しているようである。調査中にも、追良瀬川からウズラ石の沢を経由して白神岳に登る登山者何人かに会った。また、既存の登山道を使って登る登山者も多くいた。

指定ルートを使った登山者がどの程度いるかは、今回の調査では明らかにできなかったが、キャンプ跡、踏み跡等が残される程度の者は入っているようである。

クマゲラの森歩道、ルート24などは世界遺産登録直後は道形がはっきりしない箇所があったが、今回の調査でははっきりしていた。

ルート24の急斜面箇所などは、下層土が露出してきており道幅も広がってきている箇所もある。

指定ルートにあっては、ほとんどが河川沿いであり、人の入り込みの状況を確認するのが困難である。しかし、迂回路、山腹を通るルートなどでは、踏み跡ができているが下層土が露出したり根が痛められているところは、多くなかった。

イ 里植物

里の植物で登山靴などに着いて人が運び繁殖するとされているオオ

バコについては、笹内川の流域を除いてほとんど源流部まで確認された（別図参照）。

たとえば、天狗岳歩道では、世界遺産地域に指定された直後は、天狗峠から1,500mの地点まで確認されていたが、今回は3,500mの地点まで確認された。川原においては、散生する程度であるが、古くから使われていると思われるキャンプ跡、淵などで岸の岩の上などでは密生している箇所がある。

白神岳の避難小屋の周辺には、オオバコも密生し、シロツメクサが混生している。

ウ キャンプ跡、タキ火跡、樹木の伐採など

白神山地の核心地域に入る場合は、ほとんどの箇所が日帰りは無理でありキャンプを張ることになる。

キャンプサイトは、ほとんどが、水の確保が容易な河川沿いが多いのが一般的である。例外的に山腹に設営されている箇所もある。

キャンプ跡、タキ火跡はキャンプ適地の多い河川とそうでない河川によって差があるが、赤石川流域は比較的多く、次いで追良瀬川流域であり、笹内川と大川の流域は比較的少なかった。タキ火跡は、キャンプ跡にはほとんどあり、箇所によってはキャンプをしないでタキ火だけしたと思われる箇所もある。イワナを焼いた焼き串が残されている箇所が何箇所かあった。また、規模の大きいタキ火跡、類焼しかかったと思われるタキ火跡も見られた。

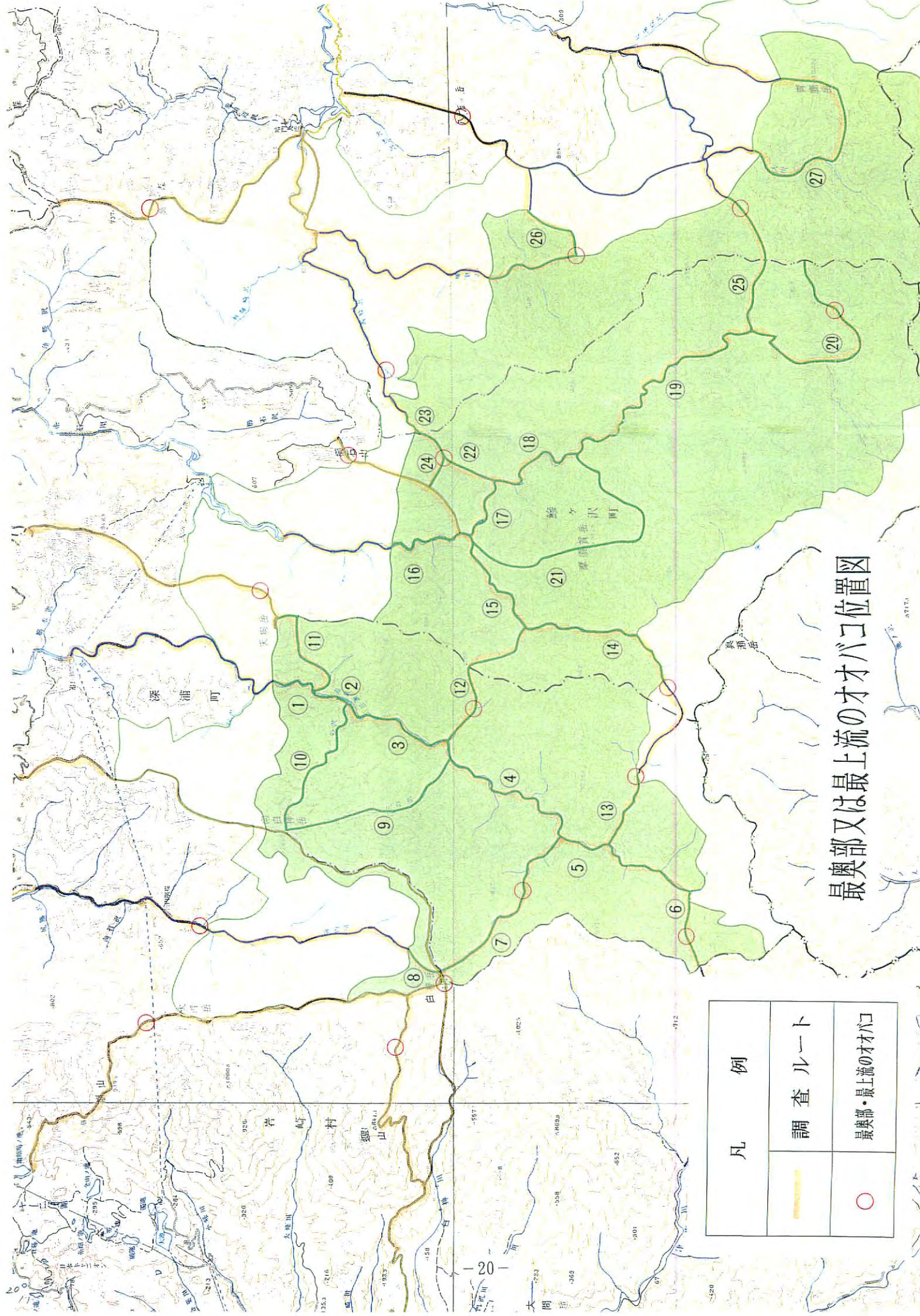
樹木の伐採については、新しいものは多くはないが、何箇所かで確認された。1箇所でも多かったのは、指定ルートからは外れるが、追良瀬川上流の通称日暮しの滝の前で18本の木が伐られていた（撮影の支障木として伐ったと思われる）。

植物の盗掘については、世界遺産区域外ではあるが調査区域内（向白神岳コース）で1箇所確認された。



エ 標識、道標、テープ、ペンキ、落書、ゴミなど

標識、道標、テープ、ペンキ、落書、ゴミなどについては、指定ルートについてはそれほど多くなかった。

標識は、既存の歩道にあってはなんらかの標識が整備されていた。中には、字が不鮮明なもの壊れているものがあった。指定ルート内では、核心地域と緩衝地域の境界に白神山地世界遺産地域連絡会議の標識が整備されていた。他は、モニタリング箇所を示す標識が数ヶ所



最奥部又は最上流のオオバコ位置図

凡 例	
	調 査 ル ー ト
	最奥部・最上流のオオバコ

確認された。

道標は、白神岳登山道、天狗岳歩道、高倉森観察歩道では良く整備されているが、中には字が不明確なものも見られた。簡易な、テープとかペンキによる道標は、指定ルート内では多くはないが見られた。関連ルートでは、たとえば、ルート26に通じる八方ヶ岳のルートではペンキによる道標が目立った。

落書は、ブナの木に彫られた古いものは確認されたが新しいものは確認されなかった。

ゴミなどの遺留品は、既存の歩道、指定ルートにおいてもゼロではないが目立たなかった。たとえば、白神岳登山道とか天狗岳歩道では世界遺産登録直後には歩道沿いに空缶等のゴミが目についたが、今回の調査では飴の包み紙などが数点確認されただけであった。

オ 鳥獣類の生息状況

鳥獣類については、ツキノワグマ、ニホンカモシカ、ニホンザル、トウホクノウサギ、アオサギ、クマタカなどを視認した。特に、ツキノワグマとニホンカモシカについては、ほとんどのルートで食痕及び足跡などが確認された。

カ 魚の生息状況

イワナについては、各河川とも源流部まで確認されたが、笹内川は他の河川と比べ少ない感じがした。聞き取り調査、タキ火跡の焼き串等からして釣り人は依然として入っているようであるが、生息数は、3年前の禁漁措置により確実に増えている。

2 ルートごとの調査結果（位置図参照）

(1) ルート1

本ルートは、追良瀬川堰堤から追良瀬川沿いに約4,400m上流を起点とするルートで、四十八滝の沢との合流点までの約1,000mのルートである。登山者仲間では、追良瀬川（関連ルート、ルート1、2、3及び4）及びウズラ石の沢（ルート7）を經由して白神岳に至るルートをパラダイスコースと称して人気の高いルートである。

追良瀬川は、両岸が急で岩が露出し岩樋状又は岩門状になっている箇所が多い。河床には大きな転石が多く、深い渓谷、淵となっている箇所が多い。増水時には、逃げ場の無い危険なルートである。

本ルートの起点は、岩門状で約8mと狭く、深い淵となっており左岸側が迂回路となっている。

オオバコは、関連ルートも含めて多くはないが全線で散生している。

キャンプ跡は、関連ルートで2箇所、ルートの終点到1箇所ある。いずれの箇所でもタキ火跡があり、特に、本ルートのタキ火跡にはイワナを焼いたタケ串が残されていた。

標識類は、ルートの起点に、世界遺産地域を図示したアルミ製の小さな標識があった。

ゴミは、関連ルートも含めて確認されなかったが、起点の迂回路に危険防止のためのロープが3本（指定ルート側1本、関連ルート側2本）張ってあった。迂回路の踏み跡ははっきりしており、歩道化している。



写真-2 関連ルートの起点（追良瀬川堰堤）

イワナの姿は、容易に確認できた。

パラダイスコースを通過して白神岳に登山する、横浜から来た中年の男女と青森県の巡視員に会った。



写真-3 ルート1の起点の状況



写真-4 ルート1の溪流の状況

(2) ルート2

本ルートは、四十八滝の沢（ルート11）との合流点から中の沢（ルート10）との合流点までのルートで、区間が約700mと短いルートである。

ルート1と同じく両岸が急峻である。

オオバコは、全線で散生している。キャンプ跡、標識類、ゴミは確認されなかった。イワナは容易に確認できた。

パラダイスコースで白神岳を目指す、40才前後の東京の男性と会う。



写真-5 ルート2の起点の状況



写真-6 ルート2の溪流の状況

(3) ルート3

本ルートは、中の沢（ルート10）との合流点から五郎三郎の沢（ルート12）との合流点までの約2,000mの追良瀬川本流沿いのルートである。

オオバコは、全線で散生している。終点の川原でキャンプ跡、タキ火跡が確認された。標識類、ゴミ類は確認されなかった。

ルート10は、中の沢を向白神岳に向かって上る沢沿いの約3,200mのルートである。起点の沢口は、幅約4mで三方岩のV字状の渓である。



写真-7 ルート3の起点の状況

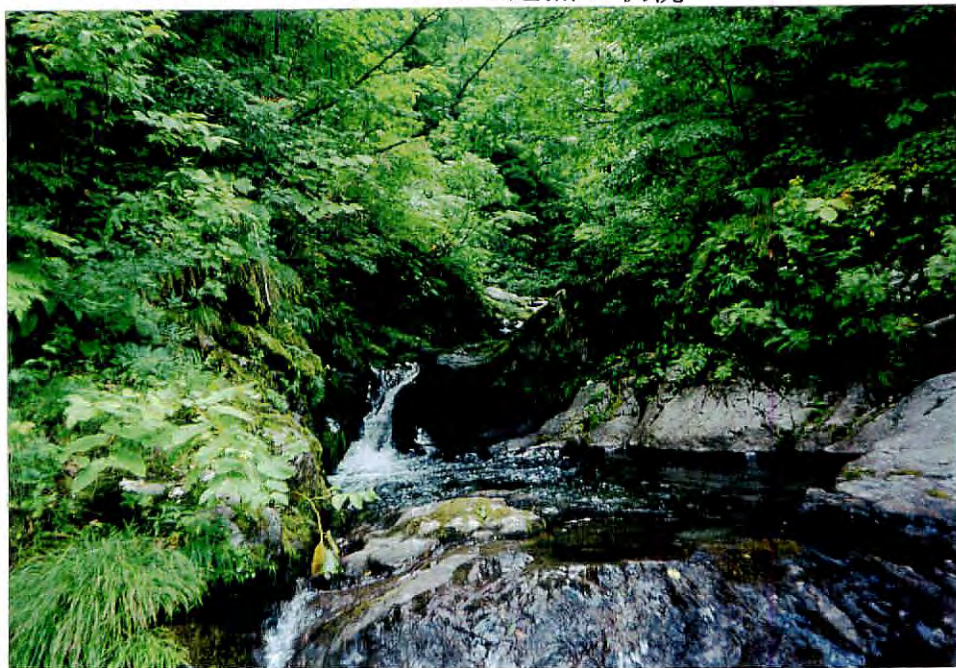


写真-8 ルート10（中の沢）の起点の状況

(4) ルート4

本ルートは、五郎三郎の沢（ルート12）との合流点からウズラ石の沢（ルート7）との合流点までの約3,200mの追良瀬川本流沿いのルートである。兩岸岩が露出し、切り立っている箇所がある。

ルート9（シワラの沢・三の沢）は、向白神岳に至る約3,500mのルートである。沢口は、幅約3mのV字谷で、急溪流である。



写真-9 ルート4の起点の状況



写真-10 ルート9（シワラの沢）の起点の状況

オオバコは、全線にわたって散生している。特に、キャンプ跡地では密生している箇所がある。

キャンプ跡は、4箇所確認された。その内の1箇所は、立木の伐採（13本）、夕キ火跡にガスボンベ、缶詰の空缶、アルミホイル等が投棄してあった。他の1箇所でも古い伐根（3本）があった。

標識、道標はないが、岩場にロープが1本あった。



写真-11 夕キ火跡(ガスボンベ、缶詰、アルミホイル)



写真-12 立木の伐採(根径13cm他12本)

本ルートもイワナの姿は容易に確認することができる。ガイドの話によれば、3年前からの禁漁措置によりイワナは確実に増えている。

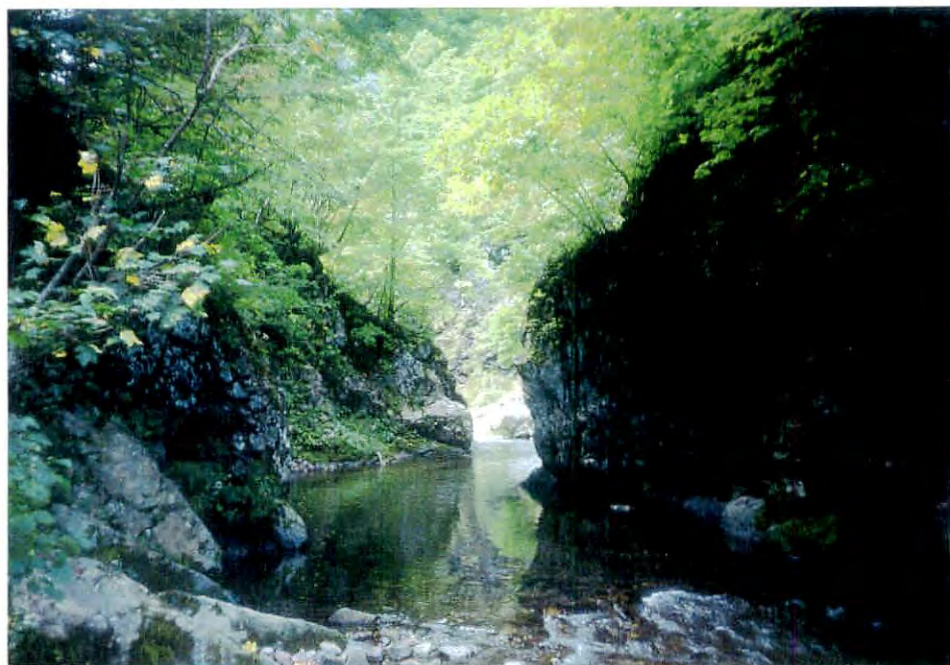


写真-13 シワラの沢近くの溪流の状況



写真-14 終点近くのオオバコ

(5) ルート5

本ルートは、ウズラ石の沢（ルート7）の合流点からサカサノ沢（ルート13）の合流点までの約1,000mの追良瀬川本流沿いのルートである。

起点は、両岸が切り立つ岩門になっており、また深い淵となっていることから通常は左岸側を迂回している。本ルートも両岸が急である。

オオバコは全線で散生している。キャンプ跡は1箇所確認した。



写真-15 ルート5の起点の状況



写真-16 ルート5の終点の溪流の状況

(6) ルート6

本ルートは、サカサノ沢との合流点からツツミの沢を約1,700m上り、次に黒滝沢を約800m上ったところで左岸側の支溪（1m）を町村界の尾根まで上る約3,000mのルートである。ほとんど沢沿いであるが尾根に到達するわずかの区間が山腹である。

オオバコは、源流部まで散生している。



写真-17 ルート6の起点の状況



写真-18 黒滝沢から支溪に入るところの合流点



写真-19 支溪の入口の踏み跡



写真-20 魚止めの滝（高さ約15m）

指定ルート of 区域外であるが、白滝沢の約200m上流に高さ約130mの日暮しの滝がある。人の入り込みの形跡があり、サワグルミ等が18本伐採されていた。ルート6の起点近くでも14本伐採されており、切り口等からして同じグループの行為と思われる。



写真-21 日暮しの滝(高さ約130m)



写真 - 22 日暮しの滝前の伐採状況
(サワグルミ等18本)